



卸成
卷中

南
海
集
巻
中

79
624
2





茶湯

欽立指南卷之二目錄

小書院大要并指南

月海文集之目

月院府莊之目

月柳文集之目

三身交鎖全書茶湯之目

屋敷之外語く抄略の少部者

火之目

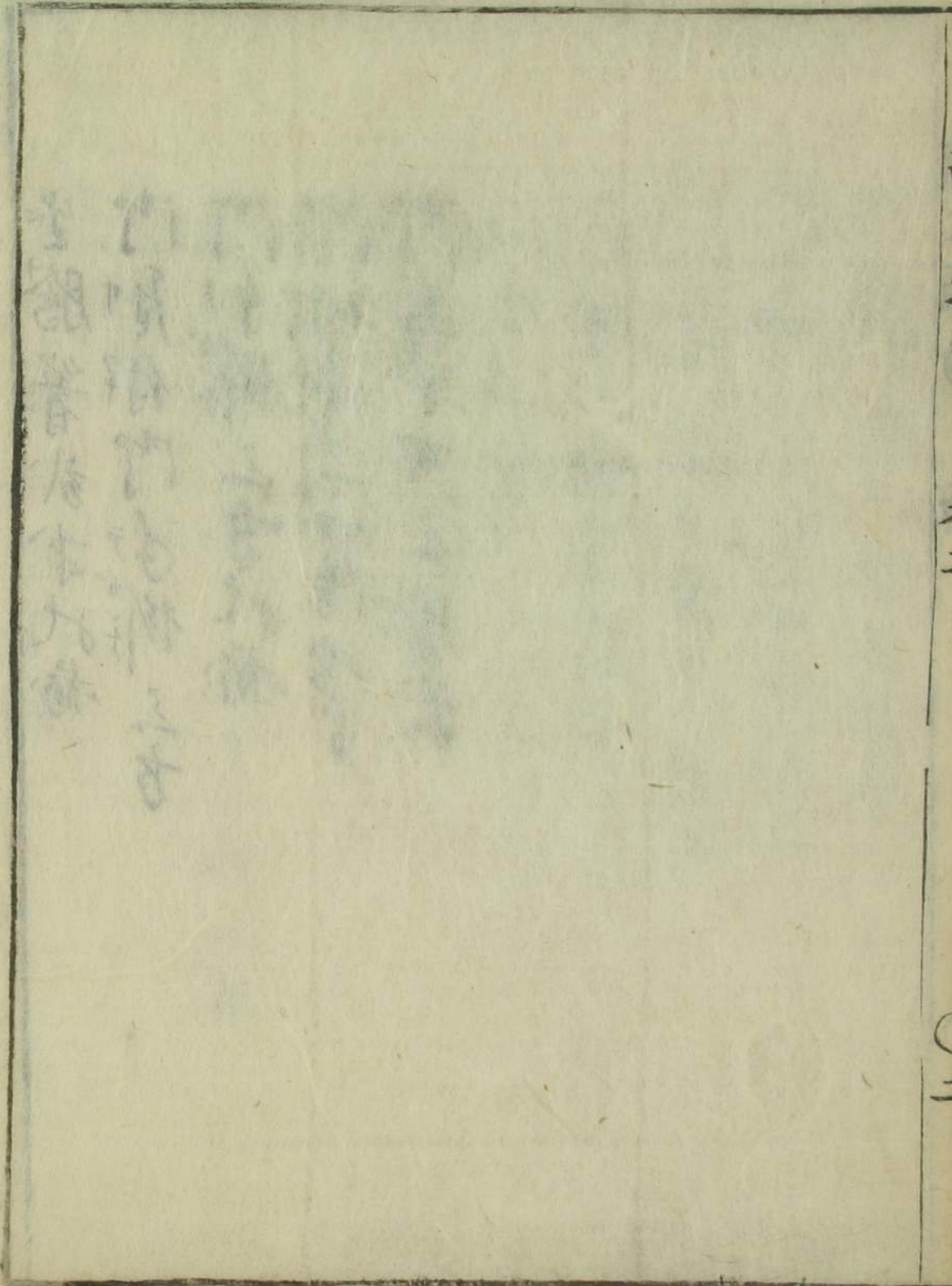
遠見の文倉

水梅

伏見酒箱 卷三

御膳物總之番長ツキ不
 御之ツキ之番長ツキ不
 御手拭總之番長ツキ不
 燭臺之番長ツキ不
 役付之次ツキ
 凡呂尾長之幕子ツキ
 本日之也ツキ
 本日之也ツキ
 未那板寸法ツキ
 危丁拾貳枚此番ツキ

出膳箸貳本此番
 御角付御手掛三方
 御手掛三方此番
 御相伴ツキ心得ツキ
 御馬ツキ之可ツキ之用ツキ

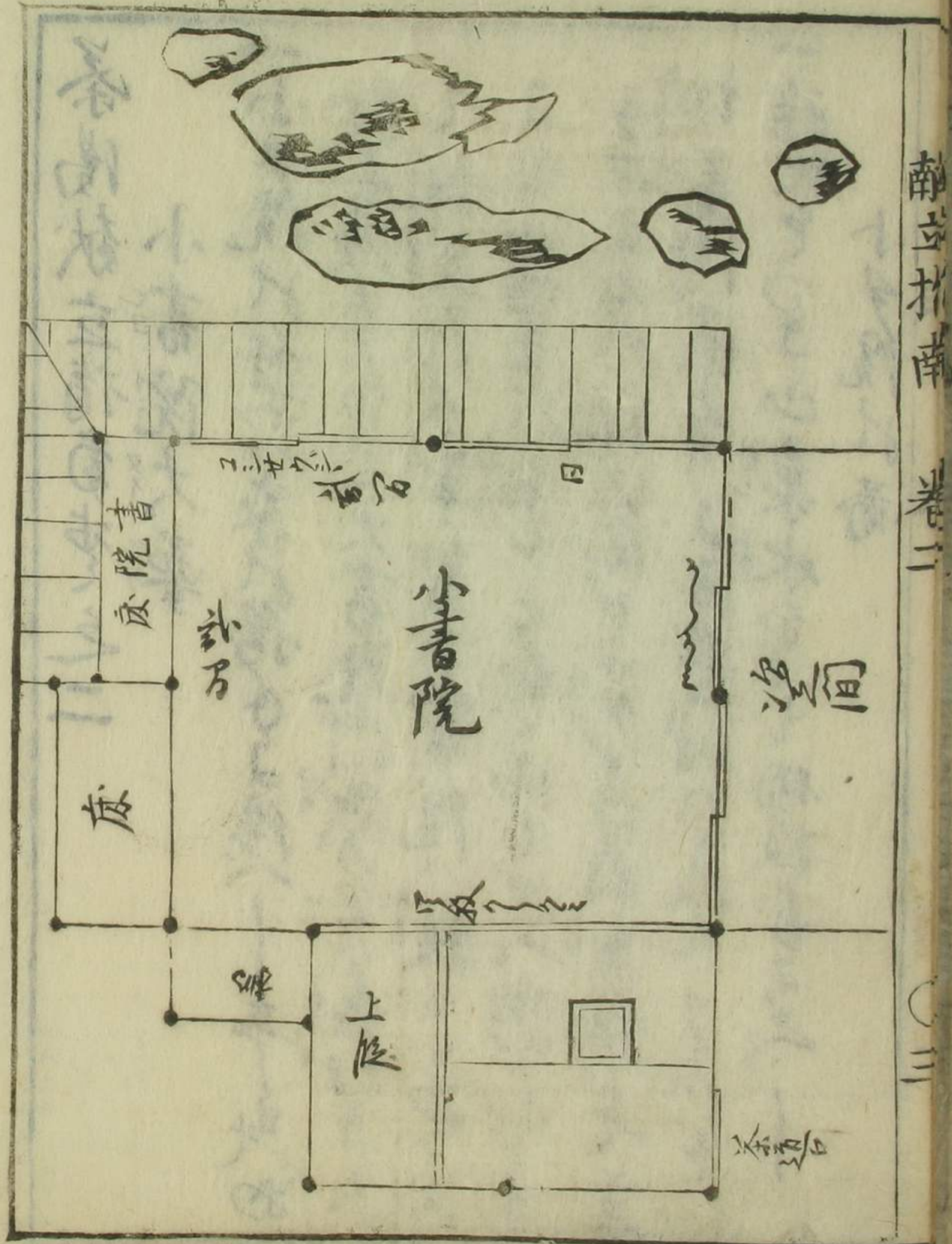


茶湯執立指南卷之二

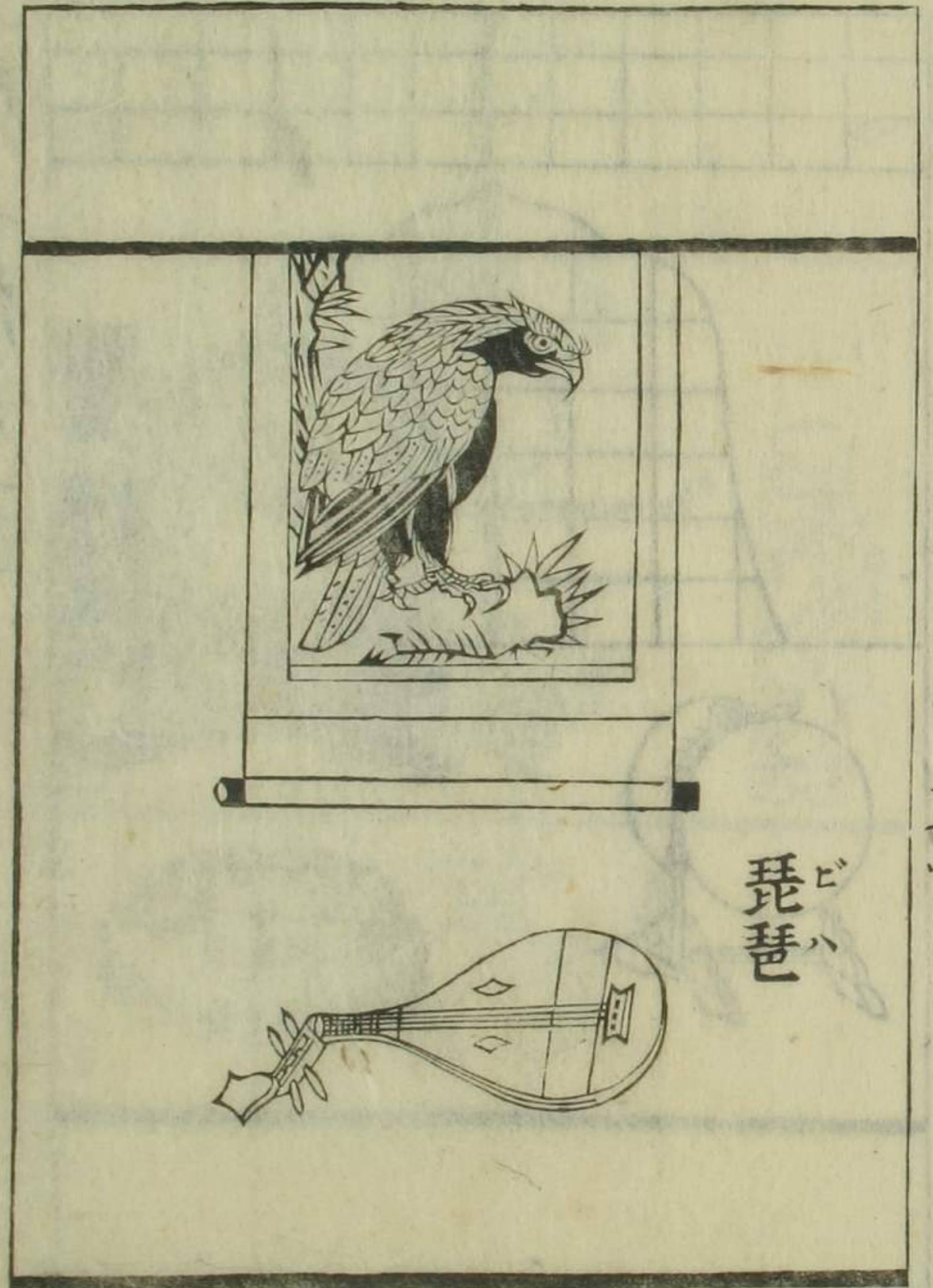
小書院大要

一 小書院此付おの家此揚子又後へ一亭此物
 敷寄^{スキ}次第^シあり大書院^{オホ}御成^{ミナ}の^{ナリ}書^{カキ}むす小
 て押^{オシ}立^{タテ}たり事^{コト}あり小書院^{コホ}の^{ナリ}敷^シり^トあり
 又付^{マツ}諸事^{シヨ}此^コ茶^チを^カり^リと^シて^テ又^マ物^{モノ}と^シて^テ加^カさ^スり
 云々^{云々}此^コ鎖^{カサ}の^{ナリ}間^マに^テも^ト及^カら^ズ紙^{カミ}を^カき^テ立^タ
 切^キ至^シ御^ミ茶^チより^カり^テ又^マお^お入^イり^テ御^ミ茶^チに^テも^ト及^カら^ズ
 一 路^チ地^チを^カり^テ山^{ヤマ}泉^{イハ}水^{ミヅ}を^カり^テ七^{ナナ}物^{モノ}敷^シ寄^マり^トあり

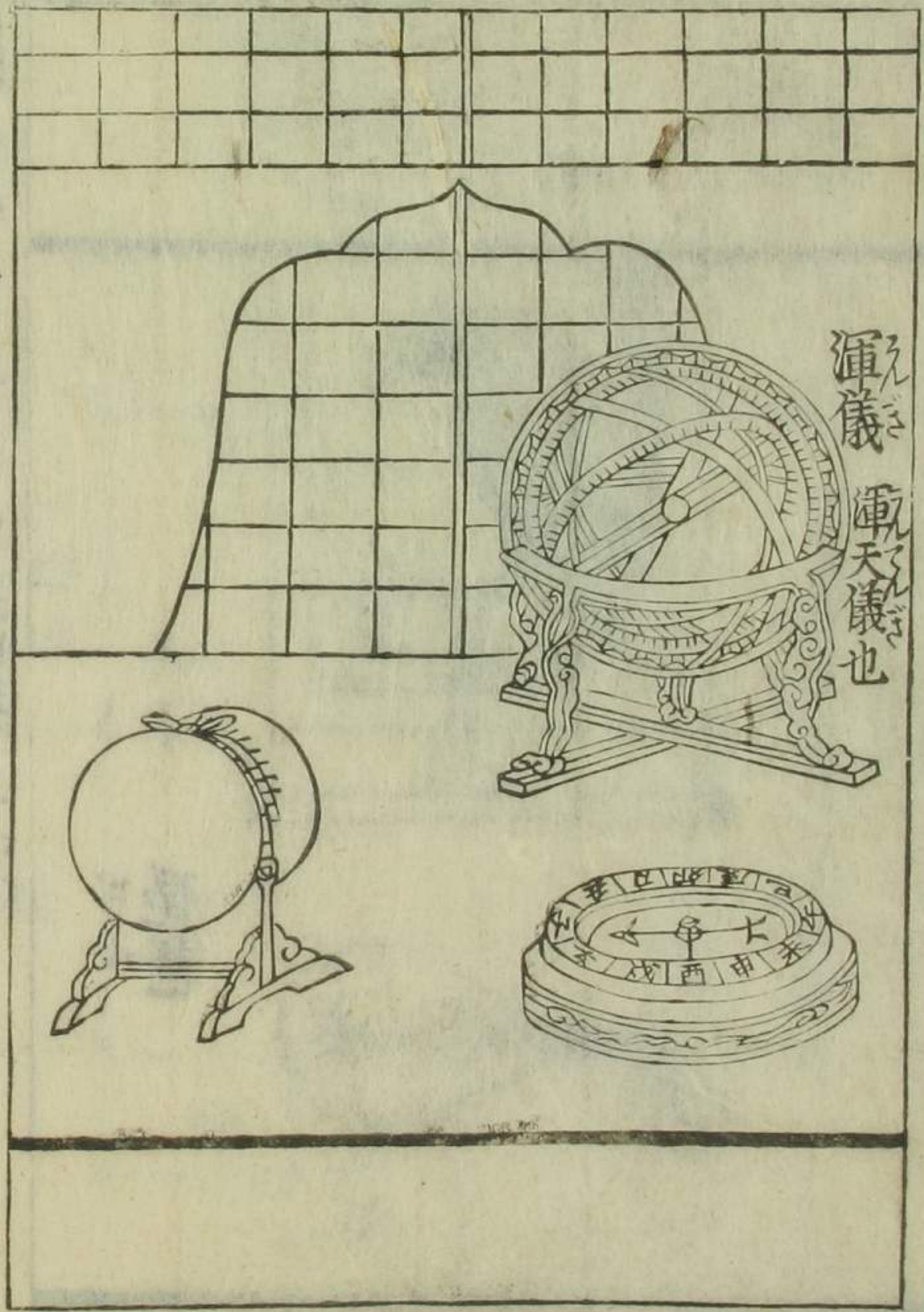
小書院此番



一小書院床の物下ニ琵琶文系

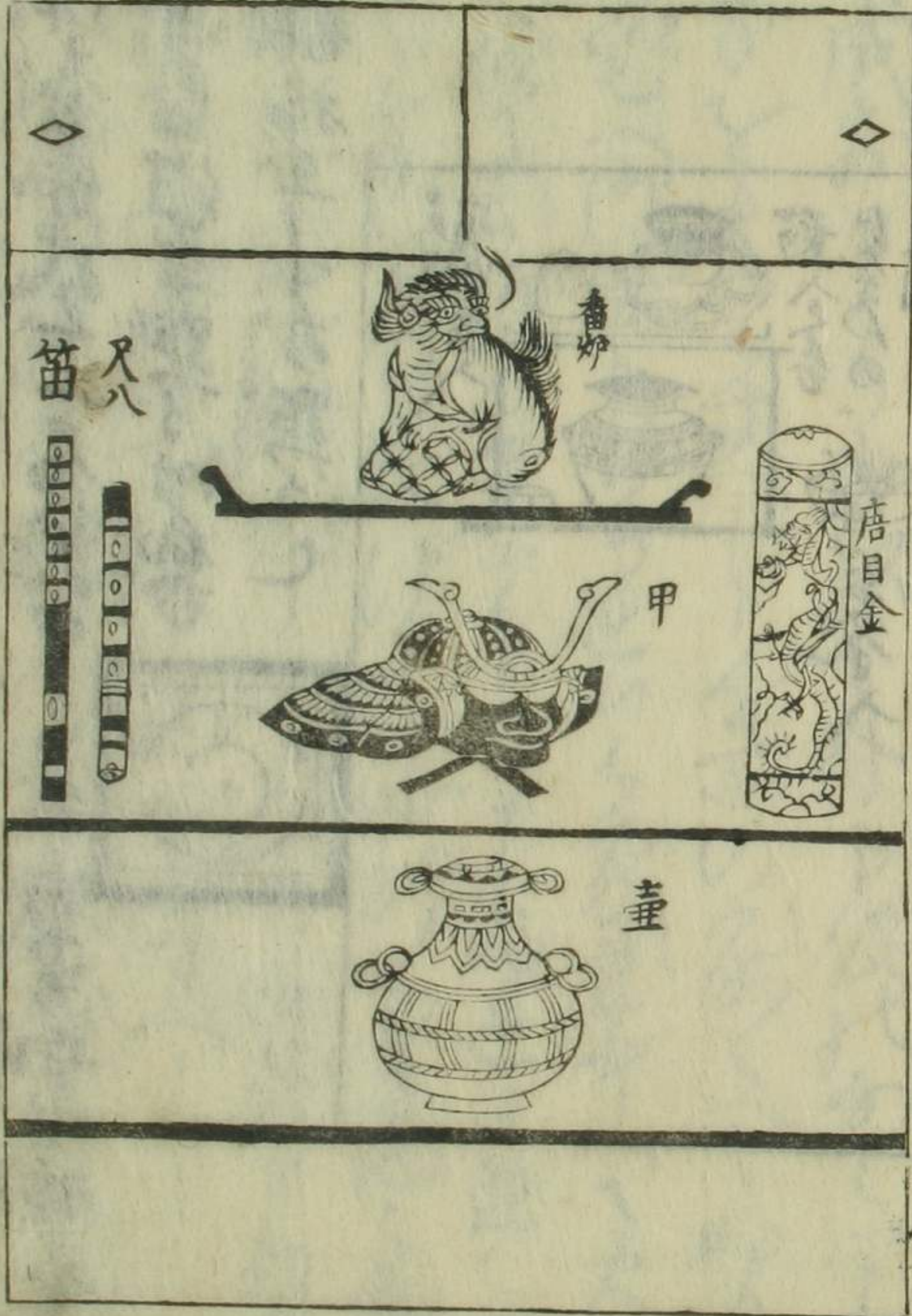


一小寺院 寺院本 文系



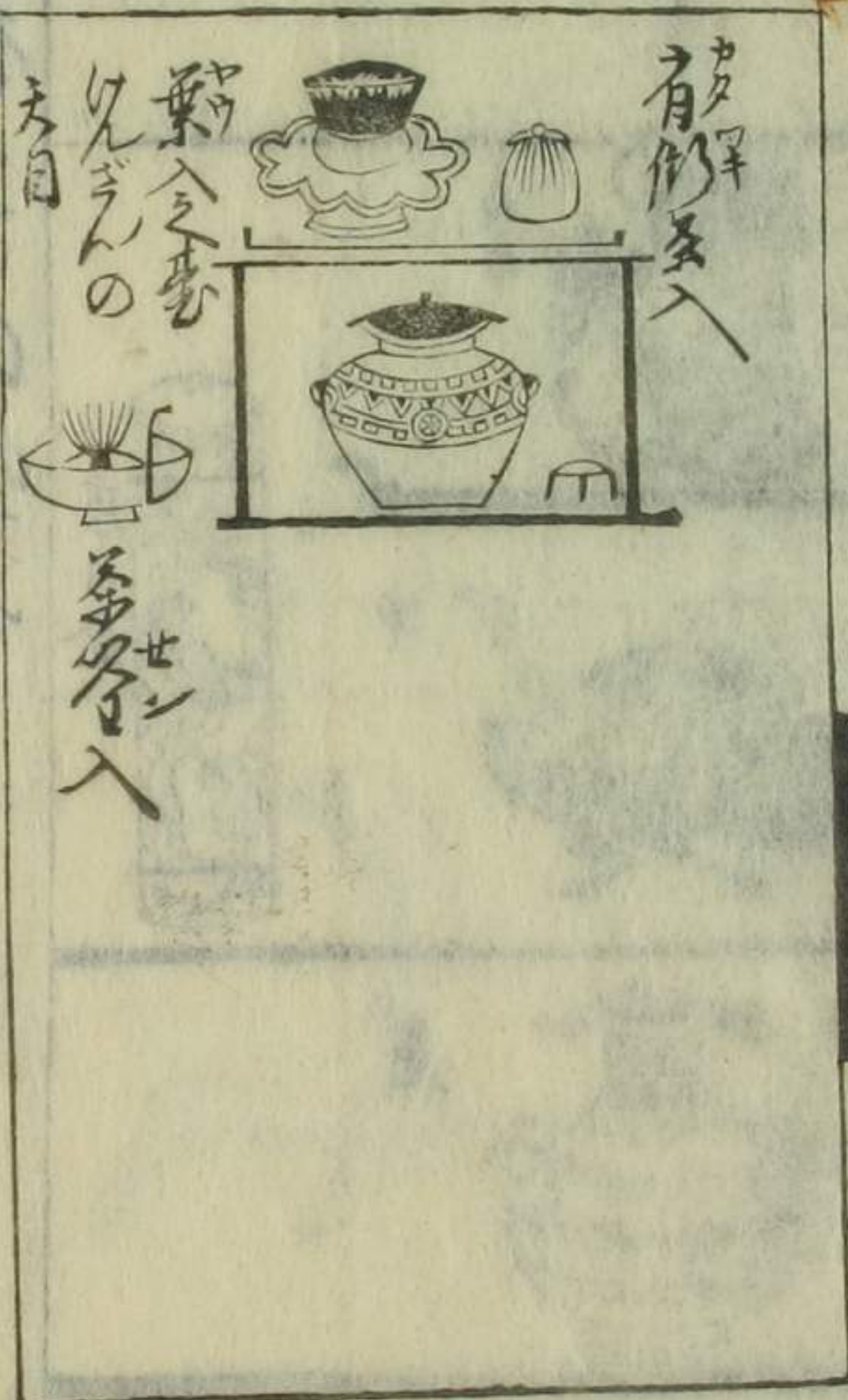
一 瓦ありと文系ハ自然ハ河ぶぐさくニハ柱おる

一小寺院 櫛三がび 文系



一 甲ハ若作物と文系早き甲うけにかる

一 小体オウタイ茶チヤ炉ロ此コ上カミ三尺サンシツ杖シヤウ中ナカニ垂タリ南ナン響キヤウ物モノ水スイ指ジ茶チヤ器キ
 入カケリ茶チヤ器キ茶チヤ器キ踏フミるツク竹エビ物モノ
 水ミヅ翻フ揚ユ出デるル茶チヤ器キ踏フミるツク
 有カ修シユ茶チヤ器キ入イ
 茶チヤ器キ入イ
 茶チヤ器キ入イ

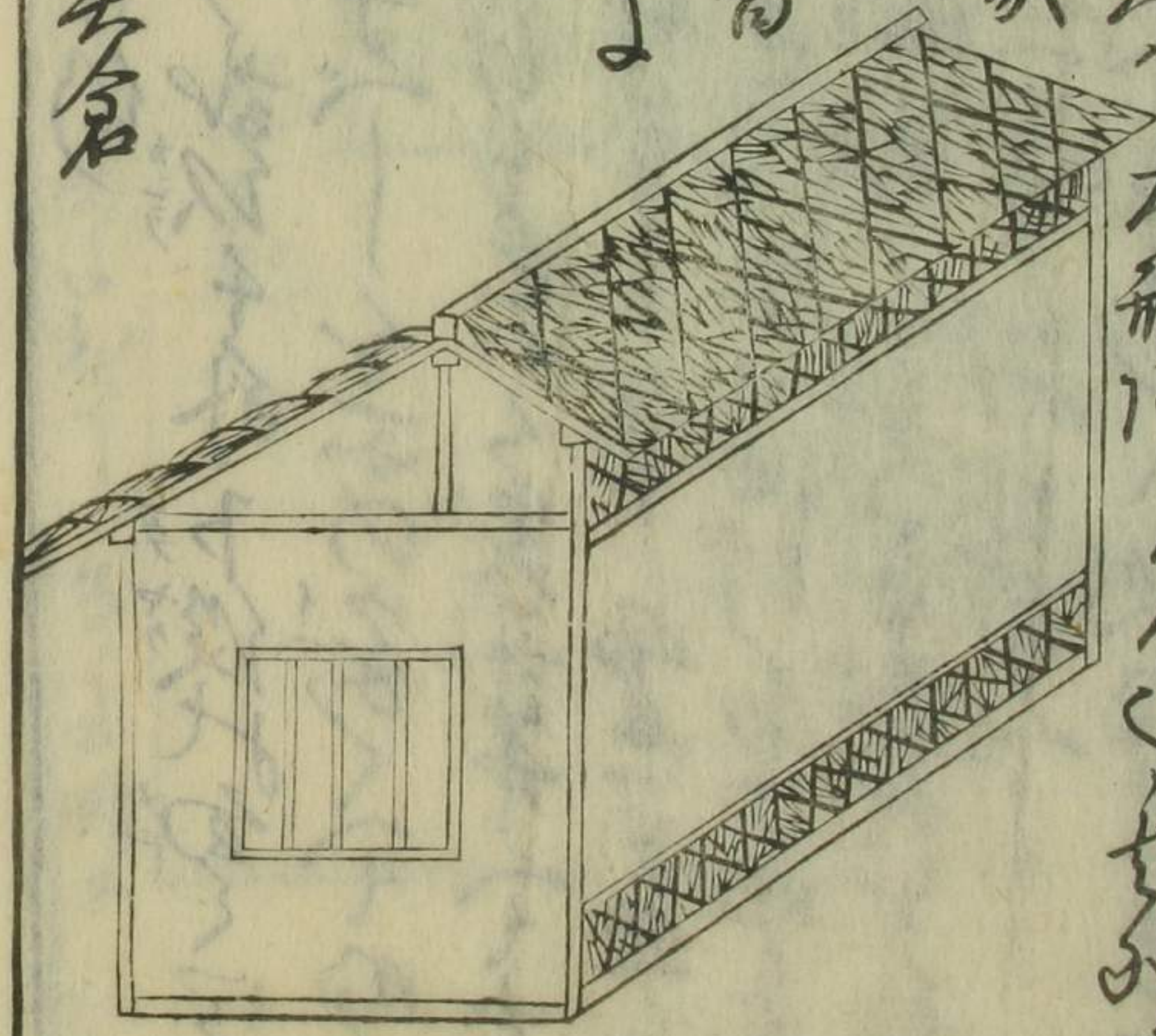


一 小体オウタイ茶チヤ器キ踏フミるツク竹エビ物モノ水スイ指ジ茶チヤ器キ踏フミるツク
 有カ修シユ茶チヤ器キ入イ
 茶チヤ器キ入イ
 茶チヤ器キ入イ

大抵也なり

一 御成ミナリお日ヒより御ミナリ以ミナリ千チヤウ外ソト下シタ段ヤウ此コ面オモテくシ写シヤウ所ショ
 写シヤウ方ホウをヲまマつツ子コズズ一ヒトをヲ示シのノ家イヘくク一ヒトのノ者モノ
 新ニ宅タク御ミ膳テンけケらラ進シユけケらラ家ケ事ジ事ジ一ヒト大ダイのノ也ナリ
 修シユ極キョクより御ミ付ツキ付ツキのノトトとト中ナカ御ミ進シユ進シユ三サン也ナリとト存ゾン
 一ヒトくクとト付ツキ付ツキはハげゲはハ油ユ抄シヤウをヲ書シヤウぬヌこコ御ミ以ミ
 のノ面オモテとトはハ御ミ藏ザウ意イ一ヒト大ダイ南ナン響キヤウ具キとト御ミ持チまマ
 つツるルをヲ長ナガ屋ヤおオへヘしシ中ナカ御ミ月ツキ心シンすスべベ一ヒト
 屋ヤ末マタ外ソト御ミ話ワタシをヲくク杖シヤウぬヌきキ者モノ也ナリ
 一 屋ヤ末マタ外ソト写シヤウ方ホウをヲ書シヤウ少シヤウ屋ヤとト建タテてテ者モノ也ナリ

或人死南日此約よりまじりく書せば
 づし此番へハ 大敵何ぐるこも外
 歩月付式
 人者おく
 とまつる後者
 おは油取地よ
 二ヤ付く



遠見此舎名

一遠見此舎名と云ゆ成を心ざるとはむ所又ハ一軍
 才道ハ筋の高より或ニケおとニ燕人を撰り
 上垂故いんを色ばら能ある半の二もためあり
 何のハきを也強盗の何るまじりさよもや 加振
 遠見をまわけハ幸まの心大き安堵
 一近所ハ誑説口論之常一子違け付るむ
 べきと一燕五重の仁と云ハ中付又下役の者も
 み定市かけあささふ作法あまらよヤ付る

水お桶

一 桶より外流此の由よしハ可は氣水を入

船上二玉を流石の石へ細く水をおさへ

河船物然此焉

一河成此る此岸此河

樽よ垂べ一勝げ

ありおれ院よしそまの

ん位よ依て河船のわハ持

みそ共ハを尾よありべ

凡各屋めく 色形よ大小

ととよん道羽よ指さべ ち吹ハカクけへ結る



御さるるくは翁

一相之間此能の肉よるべ

御靴と何あそを振子の

かともとらると箱入おえ

李之足此樹の肉入垂べ

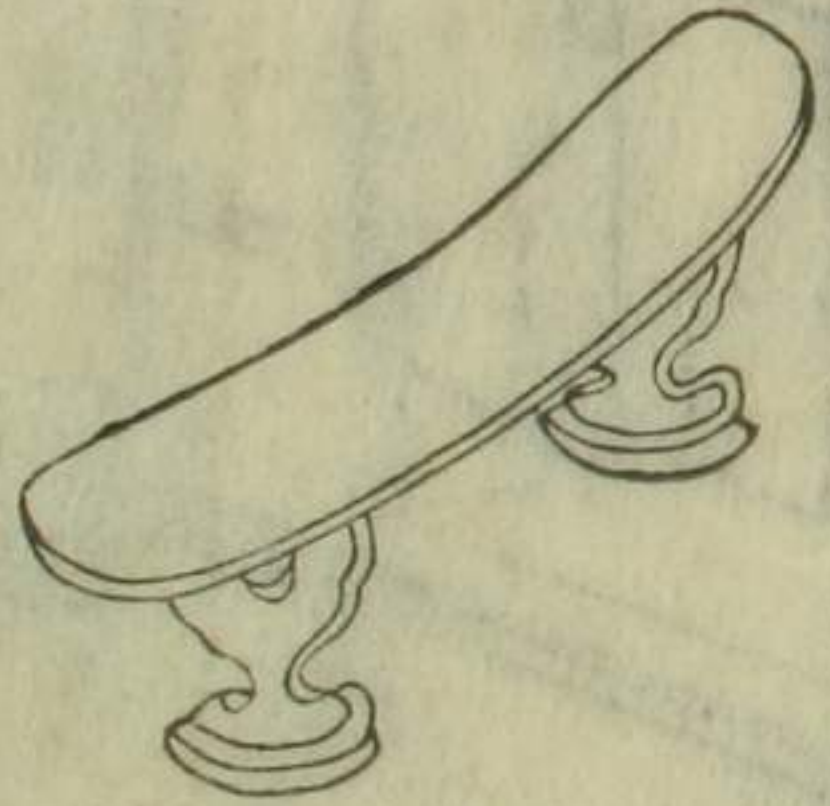
一形委小夜恙を振をさこ

箱よ入縁からの内あくと

又ハ李のる樹のほるとよ

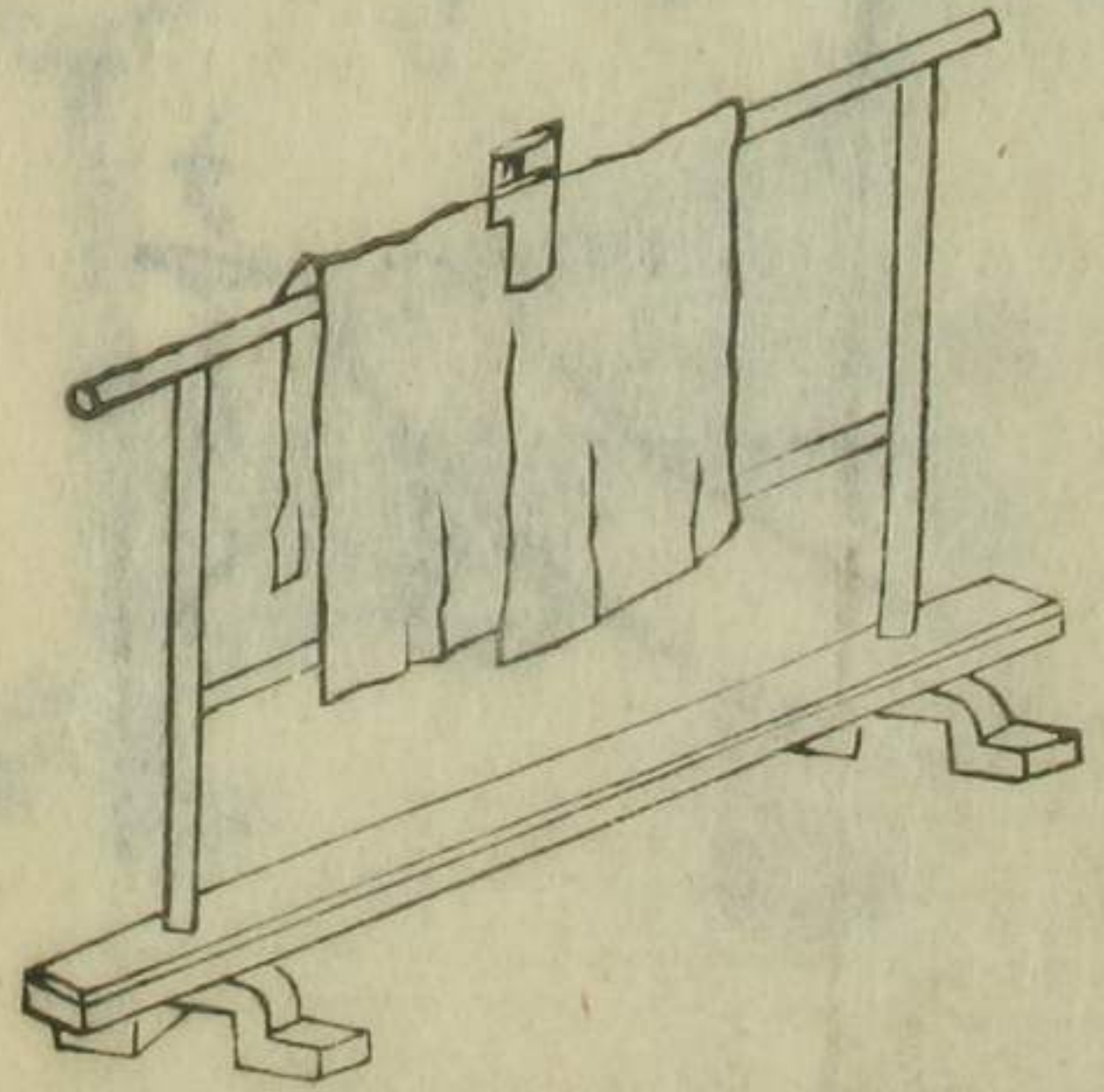
角へ奇垂べ

まき



巾子拭線之番

一巾子拭けハ縁が之の内
 又糸縁の水鉢の糸ハ
 垂べハ糸縁あぶす上
 又糸縁の糸ハ
 巾子院の子水鉢の縁ハ
 一糸垂べハ拭て子水鉢
 此ある糸ハ何方あると
 巾子拭け垂べハ



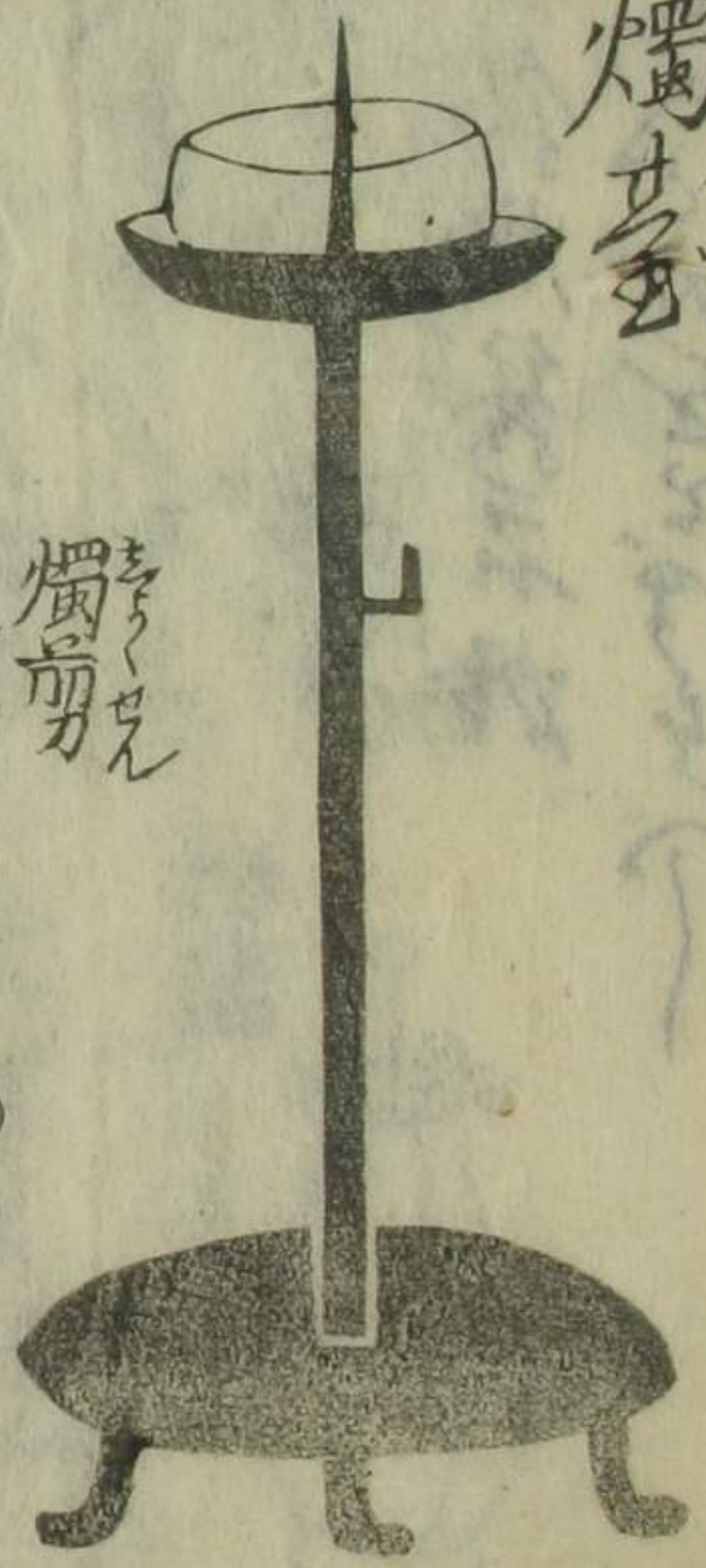
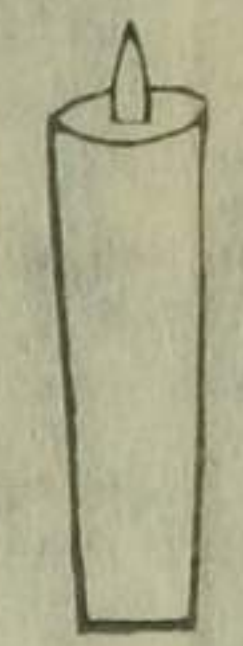
一長周炉裏此方ハ押込
 戸和之此内ハ入垂河あ又

巾子院の子水鉢の縁ハ
 一糸垂べハ拭て子水鉢
 此ある糸ハ何方あると
 巾子拭け垂べハ



大燭ダイソウ

蠟燭ラウソウ



真壺マニ

燭剪ソウセン



石燈イシドウ



油瓶アブ



役付之次ヤクツケノツギ

一 松奉マツノホウ

一 村田八高ムラタハチタカ

一 河津友文カサリトモフミ

一 御基ミソキ

一 路比奉チノホウ

有松玄蕃アリスカゲ

村田八高ムラタハチタカ

河津友文カサリトモフミ

御基ミソキ

下役者シタヤクモノ

獨田ドクダ

下役者シタヤクモノ

路比チノ

松奉マツノホウ

一 路地方下役之人

足持 日 日
号 杉 吉
野 系 中
侍 貞 如
之 方 之
所 方 所

一 掃路之者之人

一式代名其男拾人

一 月反次役之人

一 同地お託人

山 号 掛 田
本 田 子 中
集 庄 貞 孫
人 水 手 系

一 頭書下之人

一 是性大物之人

一 從是性云拾人

一 使番之人

一 使番之人

海 磯 務 立 本 孫 小 不 行 李
田 野 田 川 本 孫 小 不 行 李
求 求 求 求 求 求 求 求 求 求
馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬 馬

一使番^シの^シ海^シ邊^シの^シ人^シは^シ使^シの^シ勅^シ歩^シの^シ人^シ也
 是^シ指^シ女^シ人^シ小^シ遣^シ者^シ女^シ人^シ也

金子友之進
 石川七三郎
 桑田貞九郎
 伊丹誠部
 船橋政之進
 山平松中郎

一河^シ膳^シ通^シ比^シ元^シ拾^シ人^シ

右之拾人ハ才^シ藏^シ才^シ二^シ藏^シ
 才^シ之^シ比^シ才^シ也^シ才^シ之^シ比^シ才^シ也^シ
 才^シ之^シ比^シ才^シ也^シ才^シ之^シ比^シ才^シ也^シ

後俊民部
 山平丹七郎
 橋本又九郎
 松本信七郎
 本村信方中郎
 園九郎
 寺山信之進
 神田信之進
 津山信之進

一月付抄人

一歩^シ楷^シ月^シ之^シ人^シ

右之人比者九ハ居不^シ定^シ不^シ定^シ不^シ定^シ

一火比也乃武人

中井造酒之丞
編酒方之丞

右子起り此是惟六人付書

貞永為人

一諷詭湛乃武人

石井長為

右方之總寫乃足惟拾人又大の包と書後ス

吉田ト

一河原兼抄路中乃武人

貞泰林故

津川松房

右下役之坊主拾人

一河醫師武人

少海曲之廣
松田玄勝

一河外科武人

山川三光

一鍼師武人

李長水之

一河人武人

如合孝意

社以君都

一河儒者武人

花山の元
萬川元之丞

一河膳奉行訖人

右内相伴膳本と兼統下

一冠者役人訖人

一河新理下共奉行訖人

一河新理下目付人

一河新理下訖人

村田吉次郎

長田丸吉

俊者拾人

花村式部

三上河守

富水吉房

系田十郎

冬川久七

井上三郎

右河役之首三人

一河新理人五人

一黄方役三人

お升吉次郎

山崎吉次郎

下河系守

菅野侍之丞

吉村又三郎

藤本久七郎

森吉次郎

久田久七郎

一燒方役三人

一河菓子作役三人

右ト役之者三人

一板あ五人

京 中京

音 作

梅下 作

新分 京

右川 京

市 市

字川 京

長井 京

新分 京

村丹

一十人此者拾人

一河食たき三人

凡呂金吾子河菓子

一至此人膳所^{せし}なる^ふく^もか^し時々凡呂金

吾のらひ^て垂^り河^に懸^りよ^り入^り三^り抄^りと^して^し所^を

今^の敷^き寄^りあ^らむ^はお^の入^り也^と

一凡呂金此^は幾^もハ^記す^る子^を友^と大^法師^の内^にお^け

又^は外^に此^を又^も三^りの^らひ^の垂^り

一二の亭此極あり又六路地の内みくしる葉子
とらるる亭何れ

お目代也

一 亭之河成とて家お目よ亭とせ也一と河
近時とてとらるる河の河原にけり也可
より離らとらるる河原にけり也可
のりハ河原の河原にけり也可
お亭とてとらるる河の河原にけり也可
河の河原にけり也可
河の河原にけり也可
河の河原にけり也可

ゆとらるる河の河原にけり也可

一 河相伴よハ老中此也式三人其外一人おしは
意よとらるる老人の醫師とらるる也
何者おとらるる河の河原にけり也可
とてとらるる河の河原にけり也可

お目代也

一 河相伴よハ老中此也式三人其外一人おしは
意よとらるる老人の醫師とらるる也
何者おとらるる河の河原にけり也可
とてとらるる河の河原にけり也可
とらるる河の河原にけり也可
とらるる河の河原にけり也可

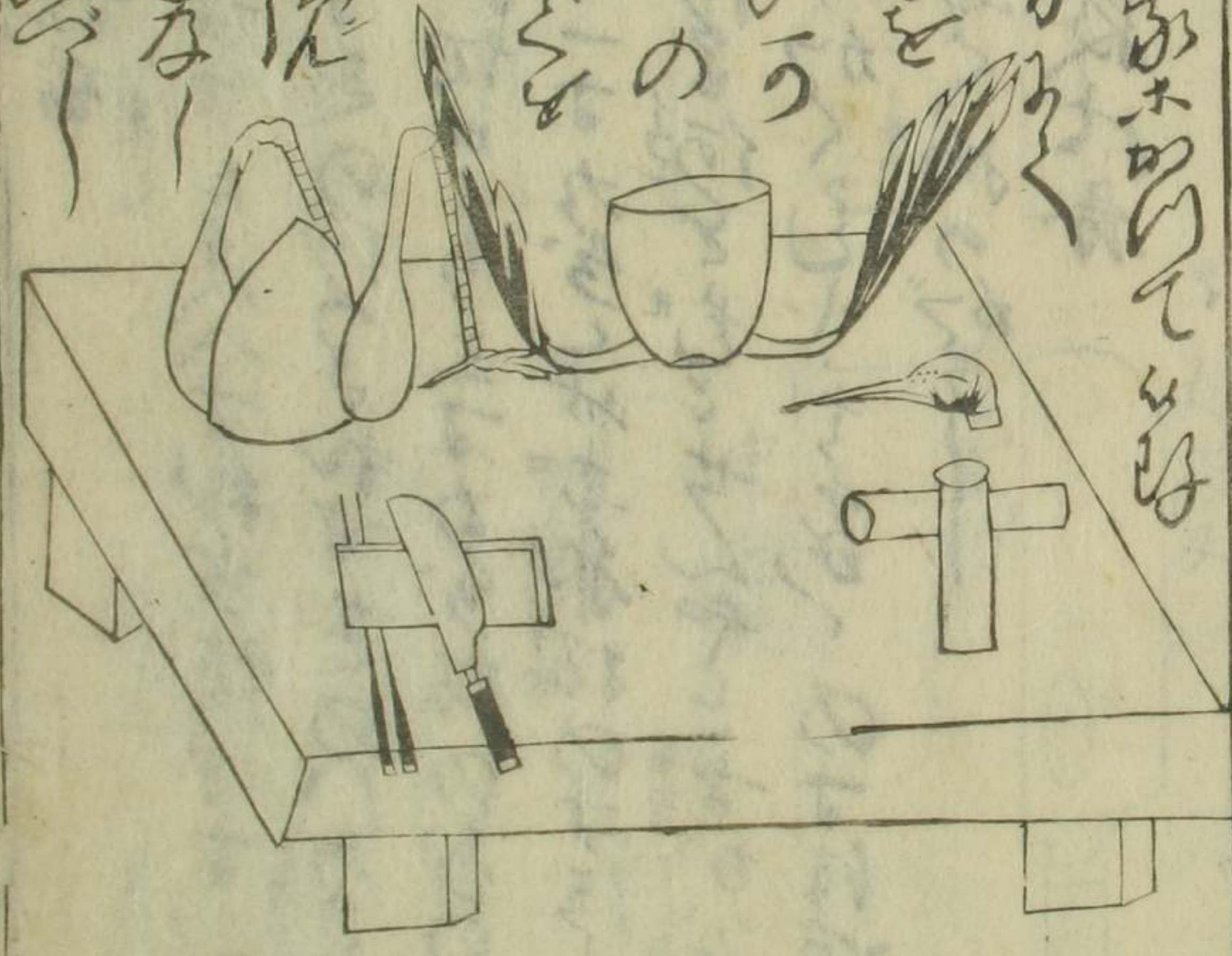
つれづれひる

一 抄の間に小まな板を敷いたる紙(中)の
危丁と云ふは、ある所の板を敷く様
小て敷く亭まじ上下あくる其外
く下あくる物する

一 抄の上下あくる板を敷くは、向ひ
鏡の板を敷くは、其後奇て切ぐ
抄の家の上へ、我式不取半の
成、十年よ切を要するとは、
まの板は、

一 此の板の代、木切のて、

後、まの板と云ふは、
けり、まの板と云ふは、
荷、大まの板、ひら
まの板、まの板、
ち、まの板、
書、まの板、
丁、まの板、
の、まの板、
まの板、

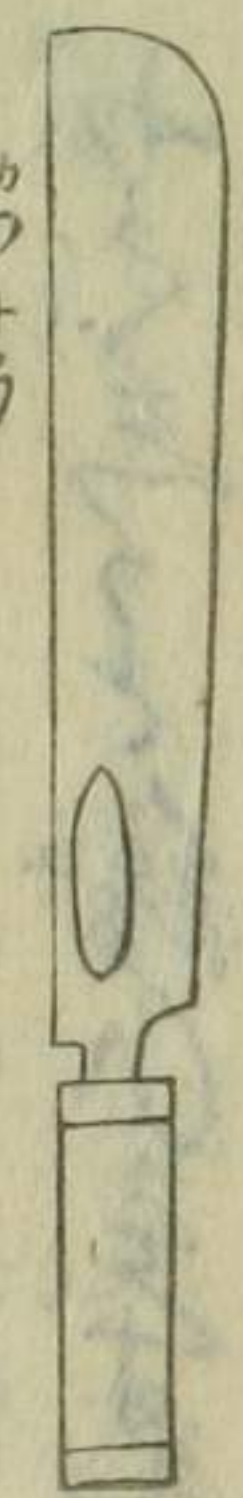


手那極寸法

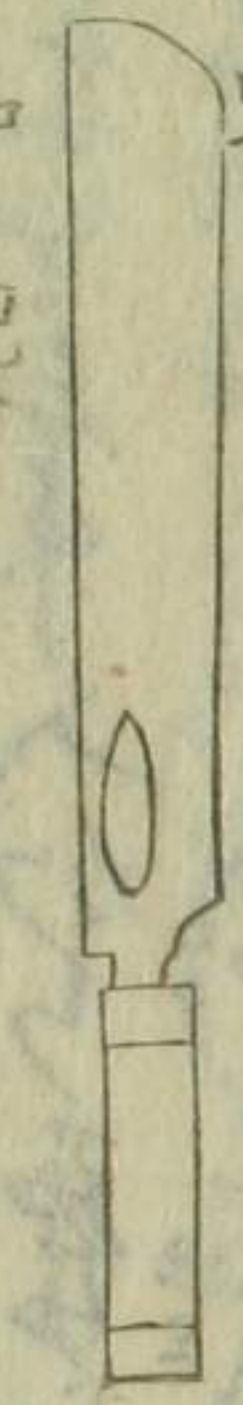
一 裁尺八寸五分長サを尺八寸五分幅が寸五分サ
 何れ此高サ裁寸題の何れも裁寸足のいりさ寸サ
 足の付知板此切口より三寸五分板のちの厚
 ちより何れ板一寸五分此手那極の寸法と書
 くよそちびの何れも何れもせんとせんやと書かば
 十寸五分の書よりかくもいへる家々の寸法に
 さる色は寸法中く短めが

庖丁の裁寸法

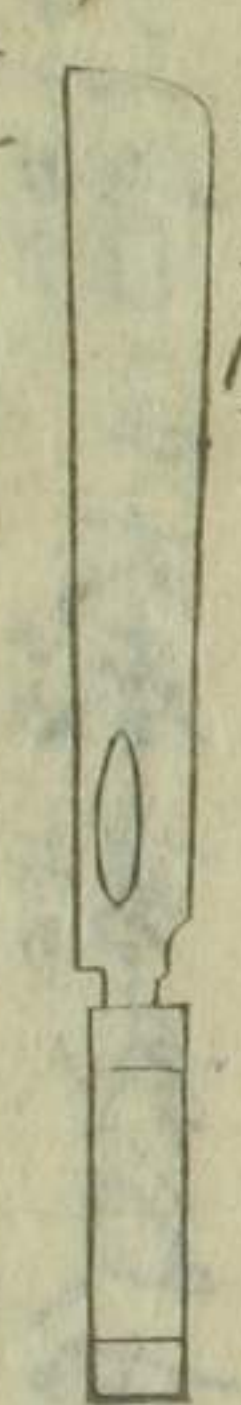
大鳥



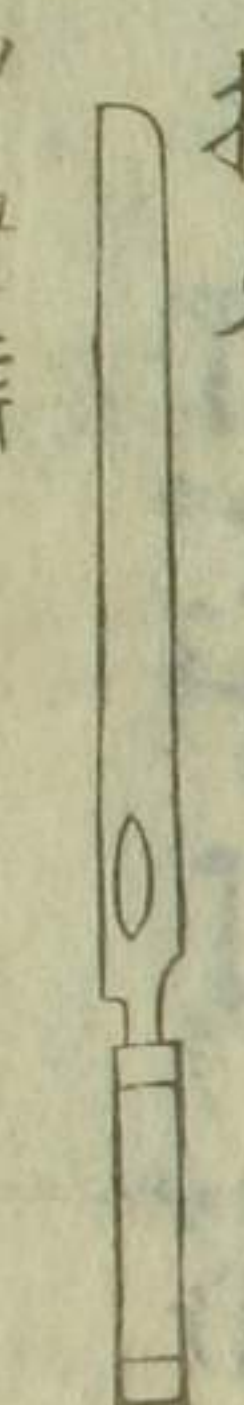
割刀



中庵丁



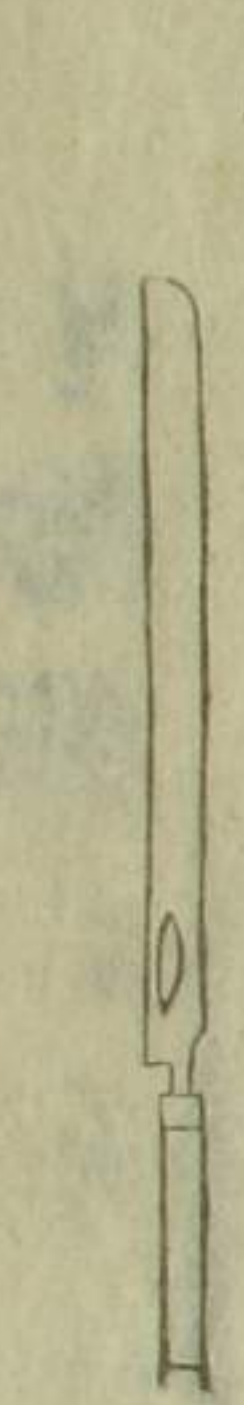
指身



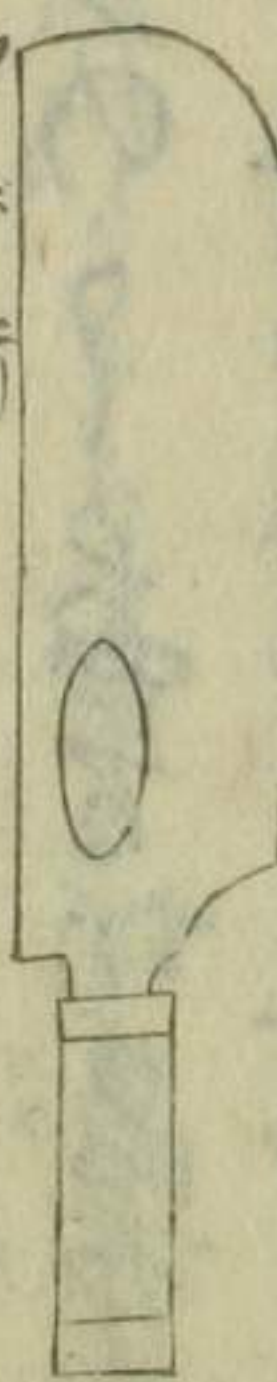
章舉



小たし



大庵又



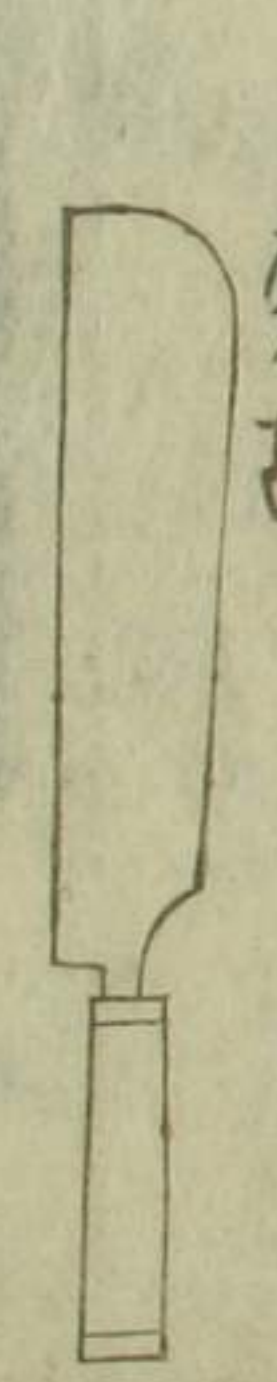
蕎麦切



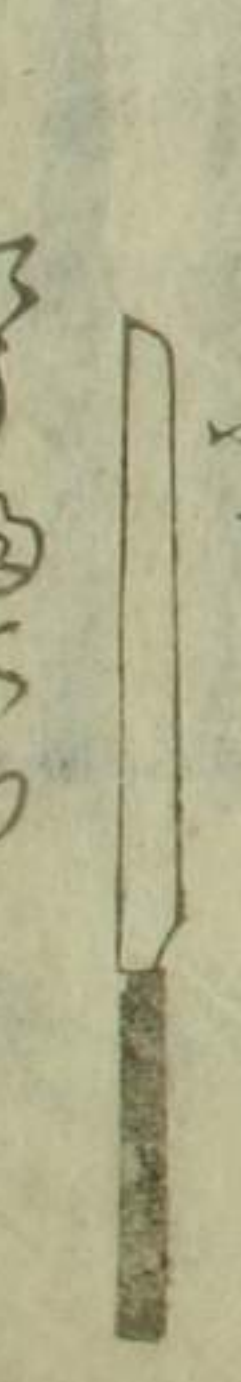
中庵又



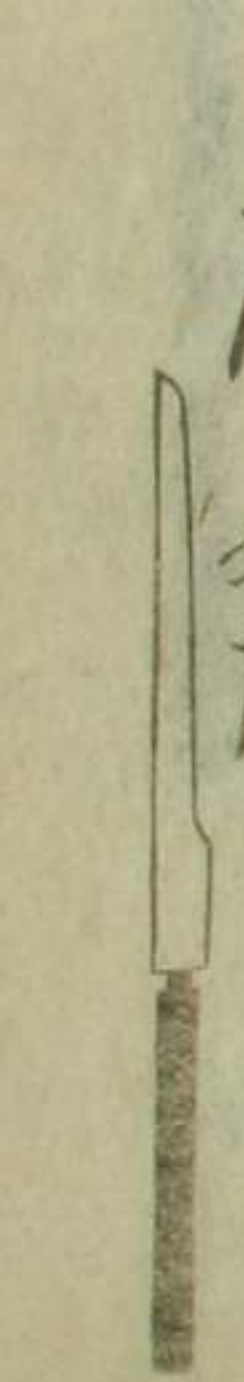
栗しき



小刀



たしめち



生勝箸
生勝箸は、



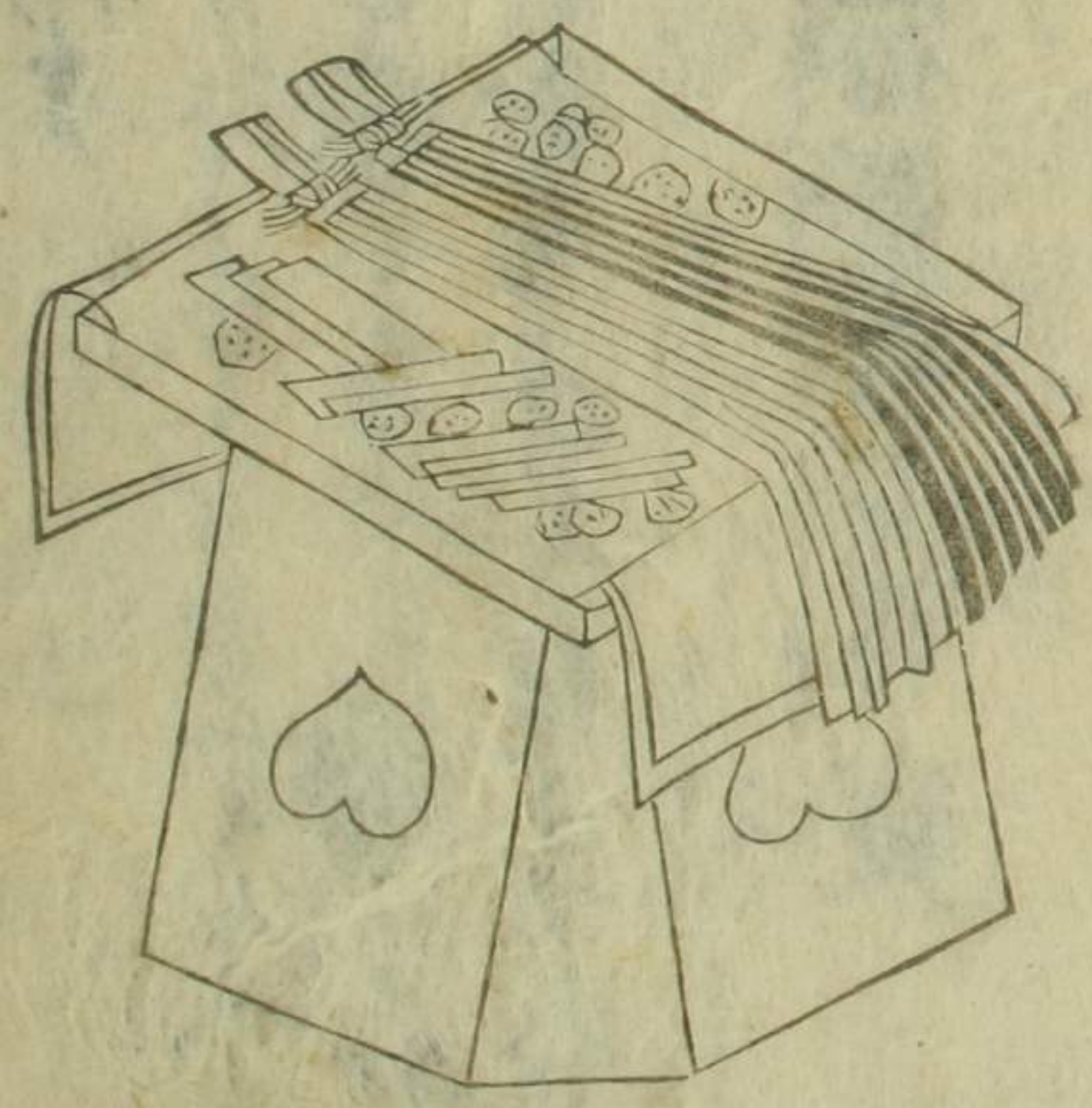
小 大

竹付子掛三方

一 三方は、大奉書或は取重あて下は白げの洗指
糸を糸車入から糸をこまごまに巻れ、何と
と一ハ、糸を取重紙めく包よとせる水川
めくまると、結ひを寸数分のうへ、あ言切、糸
との、これと、先がらうよ、本ほら、この、これか

竹付子掛三方此品

ほら、うへ、糸も、中、紙めく、包、水川、めく、結ひ、
糸、これ、と、糸、布、巻、あ、よ、糸、と、糸、布、と、あ、寸、
よ、切、裁、ら、給、申、候、と、乱、一、から、糸、車、と、よ、の、糸、



状、正、留、有、卷、二

御相伴一心得治す

一御相伴より三ふあうばあだーあをさすべし
あうより嬉欲あをさす嗜むにち日入は行あせ
くが香とたけあさ香あとの毎極するを
さすとすべし

禮記曰 將適公所宿齋戒居外寢

沐浴

一御相伴ハ物事気と付心とくづるべし

としてハ大なるふ調治あす

丹書曰 敬勝忌者吉 怠勝敬者滅

一御あふあもよ敬の心とそあはを物事とほり
勝とのさどもさうりゆらせむとすべし
いさうりたさむべし

論語曰 入公門鞠躬如也 如不容

論語曰 入公門鞠躬如也 如不容

一御あう居てハまはとささうさうさうさうさうさうさう
夜がさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
もと中うねきあ後とあうりえあたまあま
すハ大なるさあ

論語曰 危右手 衣前後襟如也

一 漸あよまいるよイイ井イ琴イ此イ爲イりイとイぬイじイまイじイきイ
 ありイ是イもイ老イくイたイらイしイるイはイ依イるイおイ足イづイらイひイ
 とイ是イ由イ也イハイおイのイづイらイしイるイおイ居イるイをイ琴イもイぬイじイまイじイきイ
 しイかイのイおイうイらイしイるイおイ居イるイはイ依イるイおイ足イづイらイひイ

論語日行不履闕

一 履イするイ時イハイ方イへイかイつイまイ居イべイしイ角イけイくイ居イ
 於イ心イのイ正イありイとイ身イ一イつイたイらイしイるイ時イハイ履イきイ方イ
 とイ是イ久イほイどイのイきイちイあイらイぬイりイ切イりイなイすイるイ時イハイ履イきイ方イ
 のイ下イらイしイとイつイらイしイるイ時イハイ履イきイ方イ

論語日席不正不坐

一 立イ居イるとイ立イばイけイはイまイづイらイぬイ是イ氣イくイ思イひイたイ
 のイ由イハイ物イ事イいイがイしイくイらイしイるイ志イすイ定イむイぬイ
 立イ居イるとイ立イばイ自イ己イありイぬイ也イ貴イ人イのイ相イ伴イがイぬイ
 立イ居イるとイ立イばイ自イ己イありイぬイ也イ貴イ人イのイ相イ伴イがイぬイ

禮記曰足容重手容恭

一 足イとイ脚イでイ坐イるイをイ重イくイとイせイどイ同イしイさイすイぬイ
 手イとイ手イでイ坐イるイをイ重イくイとイせイどイ同イしイさイすイぬイ
 足イとイ脚イでイ坐イるイをイ重イくイとイせイどイ同イしイさイすイぬイ
 手イとイ手イでイ坐イるイをイ重イくイとイせイどイ同イしイさイすイぬイ

加務ある事がらむれ侍の大事こころく文育少く
ありとわくし考りたりとむべきハガクモシ

孟子曰人之有道也飽食暖衣逸居而無教
則近於禽獸

一御膳をいつると御相伴此口よそ人食汁此蓋を
夜膳と名食と食汁何れを何れ物と一口氣喰
箸を下よ垂相人此御膳をよとせお侍物と其
絆ハ侍テ侍才了食子べしとと並り御相伴
才了了御才了侍才了侍才了侍才了侍才了侍
石く侍ハ異およんゆりり

女儀曰侍燕於君子先飯而後已

侍燕ハ公カタハラニ相伴ス心

先飯ハ公ヨリ先ニ食汁ヲ喰心

而後已ハ一口喰テ公ノ食スル侍心

一食了り侍膳をふん食いしぎくひ御才了り

侍才ハ喰事ハ才外あり

礼記曰毋固獲 固早ク食スルヲ云 氏ニ礼ノ
獲イッキク食ラズ

一主人貴人此お少くハ小口よとるく食子べし

大口よ食す時ハ自然ん人物所時御返

答グありとみくく物あり

女儀曰小飯而亟送之スミウ、ニシテ、スグニ、シラ

一 汁相伴ハ何少くと加申れぬと主人此より不交
以加申る事ハ之礼ありん若今申さべし

女儀曰毋放飯オシ、ハ、ヲ、ニ、ミ、ス、ク、シ

一 膳して侍ハハ食此三ヶより食するを厭ふとい
とまなく喰はくはハ不仕侍フ、サ、シ、ク、

曲禮曰毋噉炙オシ、ム、ク、ク、シ、ク、シ

一 物と喰くは炙と一高き声とがハ之礼也
其一ありを大口のせハ物と事とありん

論語曰食不語寢不言

一 主人貴人此にあくハ齒の厭は食をたげりた
於と箸あくこれ一も一もつりハ皆
之外あり

曲禮曰毋刺齒オシ、ム、ク、サ、シ、ク、シ

一 主人貴人ああく食下を心算するに海は喰
れ主人此よりかんと口合せ主人が多く食する
と何々又ハいた成る程にするハ礼あり
是合食と一

曲禮曰共食不飽オシ、ム、ク、ニ、シ、テ、ヨ、ク、ラ、共、ア、ル、ニ、ト

又曰毋放飯オシ、ム、ク、ニ、シ、テ、ヨ、ク、ラ、共、ア、ル、ニ、ト

一 けりしを程色あくす... げりしす

方形すすべ

曲禮曰母流歎

一 焼物^{ヤクモノ}の骨^{ホネ}や其外何れも... とおと

多^{タカ}く骨^{ホネ}を... せらる

禮記曰母^{ハハ}齒^ハ骨^ハ

一 焼物^{ヤクモノ}と... 骨^{ホネ}を... せらる

煮物^{ニクモノ}

曲禮曰母^{ハハ}及^ニ魚^{イサ}肉^{ニク}

一 煮物^{ニクモノ}を... せらる

足^{タラシ}る者^{モノ}あはる... せらる

曲禮曰母^{ハハ}喫^ク菜^{サイ}

一 塩^{シホ}く... せらる

多^{タカ}く外^{ソト}あはる

禮記曰母^{ハハ}歎^タ醢^キ

右^{ミダリ}之^ノ者^{モノ}者^{モノ}所^{トコロ}相^{アヒ}伴^トれ... せらる

人^{ヒト}た^タる者^{モノ}者^{モノ}... せらる

所^{トコロ}馬^{ウマ}と... せらる

一 所^{トコロ}成^{ナリ}の所^{トコロ}ハ... せらる

一 通上此所^ク行^クるハ^ク結^ク垂^クる^ク共^ク故^クあ^クる^ク其^ク
 一 申^クと^クあ^クる^クべ^クし^ク一^クの^ク結^クを^ク一^クの^ク結^クニ^ク無^ク
 一 三^クが^クい^クま^クる^クは^クあ^クる^ク然^クニ^ク無^クク^ク角^ク亭^ク
 一 自^ク此^ク代^ク由^ク後^クて^クい^クう^ク程^クを^クけ^クら^クる^クあ^クる^ク
 一 行^クる^クハ^ク結^ク正^クあ^クる^クと^ク正^クあ^クる^クと^ク是^クト^ク代^ク等^ク
 一 あり

社

を白化

所

如

